



[令和8年2月11日 定例会発表要旨]

## 「札幌の保育の歴史について」

手稲郷土史研究会 会員和田 勝也

本発表では、日本の保育制度の成立と変遷を概観したうえで、札幌および手稲地域における保育の歴史について紹介した。

日本の保育制度は、もともと教育制度として始まったものではなく、社会的に困難な状況に置かれた子どもを守るための「救済活動」として始まった。明治期には都市の貧困家庭や女性労働者の増加に伴い、子どもを預かる施設が各地で生まれた。農村部では農繁期の間だけ子どもを預かる「季節託児所」なども設けられ、地域社会の中で子どもを守る取り組みが行われていた。

こうした流れを制度として位置づけたのが、昭和 22 年(1947 年)に制定された児童福祉法である。この法律により保育所は児童福祉施設として正式に位置づけられ、市町村には保育の実施責任が課されることとなった。保育は慈善活動ではなく、公的な福祉制度として整備されることになり、日本の保育制度の基礎が築かれた。

一方、幼稚園は学校教育法に基づく教育施設として制度化されており、日本では「保育所(福祉)」と「幼稚園(教育)」という二つの制度が並立する形で発展してきた。その後、共働き世帯の増加や少子化の進行に伴い、平成 18 年には保育と教育の機能を併せ持つ「認定こども園」制度が創設されるなど、制度の再編も進められている。

札幌における保育の始まりは、大正 11 年(1922 年)に大石スク氏が自宅を開放して開設した「札幌保育園」である。保育料はおやつ代として一日二銭であったことから「二銭学校」とも呼ばれ、働く家庭の子どもたちを支える地域の拠点となった。その後、昭和期に入ると札幌市の人口増加とともに保育所整備が進み、戦後の児童福祉法施行を契機として認可保育所が広がっていった。

手稲地域では、昭和 44 年(1969 年)に手稲中央保育園が開設されたのが始まりであり、民間保育園としては昭和 47 年(1972 年)にあかつき山口保育園が開設されている。昭和 42 年の手稲町の札幌市編入や、1972 年の札幌オリンピックを契機とした宅地開発により人口が急増し、それに伴い保育需要も拡大していった。

また、手稲地域ではかつて手稲鉾山が栄えていた時代に、事業所による託児機能や農繁期の季節保育など、地域社会の中で子どもを見守る仕組みが存在していたことも紹介した。



現在、保育は単なる託児の場ではありません。子どもの発達を支え、家庭や地域と連携しながら子育てを支援する、社会にとって欠かすことのできない基盤となっています。

保育の歴史を振り返ると、その始まりは、貧困や労働の中で懸命に生きる家庭の子どもたちを守ろうとする、人々の思いから生まれたものでした。そして戦後には制度として整えられ、社会全体で子どもを守り育てていく仕組みへと発展してきました。

保育の歩みとは、まさに「子どもを大切にする社会」を築いてきた歴史そのものです。地域の中で子どもを守り、育て、未来へとつないでいく——その積み重ねが、今日の地域社会を形づくってきました。

札幌、そして手稲の保育の歴史を振り返ることは、この地域がどのように子どもを守り、支え合いながら歩んできたのかを知ることでもあります。これからも地域の中で子どもたちの成長を支え、次の世代へとつないでいくことの大切さを改めて感じる機会となれば幸いです。

### お知らせ

手稲区のホームページの見直しが行われるとの情報があり、令和8年3月2日に沖田会長をはじめ6名で手稲区地域振興課を訪ねました。地域振興課から松田課長はじめ3名の出席を頂きました。地域振興課より今後も当会会報を手稲区のホームページに掲載することの確認がありました。ただ2年経過したものは「国立国会図書館」のインターネット資料収集事業(WARP)に移管され、誰もが閲覧可能です。



地域振興課から、独自のホームページを立ち上げられたらとの提案もありました。また、区役所1階「ていぬの部屋」の当会の展示コーナーについて、今後定期的に展示内容を替えたい旨要望しご了解を頂きました。内容等については、地域振興課の了解を得ながら展示予定です。第1回目として、4月「タンポポ」に関して展示予定です。

### 令和8年度定期総会

次回定例会は、定期総会になります。

日 時： 令和8年4月25日(土) 13時30分より  
場 所： 手稲区民センター2階 第1・第2会議室

総会終了後、懇親会を予定しております。

---

手稲郷土史研究会 会報「郷土史ていぬ」第214号 令和8年3月11日発行  
発行責任者：沖田紘昭（手稲郷土史研究会 会長） 編集：菊池博行・伊藤政克  
❖006-0818 札幌市手稲区前田8条11丁目4-5 林俊一方 手稲郷土史研究会  
\*TEL 090-3381-4994 \*FAX 011-682-9874  
❖メールアドレス [teinenorekish@gmail.com](mailto:teinenorekish@gmail.com) 担当 菊池 博行